

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• クラス活動や授業中に黙って教室を出て行き、校内を走る。</li> <li>• 常同行動（椅子の背もたれに背中を打ち付ける、椅子に何度も座りなおす）や大きな声を出すことがある。</li> <li>• ターゲットの人に対して固執して腕を掴んで離さないことがある。</li> <li>• 相手の反応によってパニックになり、引っかいたり、暴れたりすることがある。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落ち着いて教室で過ごす。</li> <li>• 人との距離をとり、体に触らないようにする。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成</p> <p>環境の把握      身体の動き      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span></p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 声かけをして教室に戻るように伝える。</li> <li>• 「教室にいる」「一緒に行動する」など簡潔な言葉で伝え、リストバンドに書いて意識させる。</li> <li>• 好きなところ、行きたいところがどこに行きたいのかを聞くようにする。</li> <li>• 固執して他害が出ているときやパニックになったときには言葉掛けや対応する人を変えて接する。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小学部棟に固執している様子がある。</li> <li>• 学期後半には少し教室付近で過ごすことも増えていた。</li> <li>• 教員が追いかけると遊びになり逃げてしまうので、距離をとって言葉掛けを継続していく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飽きないように簡単な作業にいくつか取組むようにすることで関わり方が増えた。</li> </ul>
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の要求を満たしながら代替行動を促す。</li> <li>・ 何がしたいのか発出できるように文字、ことばを選べるように準備する。</li> <li>・ SST 対象にならない。発達段階に達していないのではないか。</li> <li>・ 人と触れ合いたい、遊びたい気持ちはある。</li> <li>・ 体育では身体を動かす時間と理解して、外に出て行くことはない。ダメといわれたい状況を作る。</li> <li>・ バランスボールは得意。身体の使い方は上手。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学部棟に固執している様子が変わりなくある。</li> <li>・ 昼休みには体育館や散歩に出かける見通しが立ってきたのか、勝手に教室外に出ることは少なくなってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ協議で参考になったことばカード「〇〇に」「いきます」をいくつか準備してホワイトボードに貼っておいた。次に何がしたいのか文字やことばを選ぶことが定着してきた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要望が伝わると飛び出しが減ってきたので、引き続き準備したことばから選んで伝えられるようにしたい。</li> </ul>



		できたとき、笑顔でコミュニケーションがとれるような場面が何度かあった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・本人に理解しやすいように、絵カード等を使って、今の声の大きさがどんなレベルの大きさなのかを理解しやすいような工夫をする。そして、いま出した声がどのレベルだから良かったのか、あるいは良くなかったのかを示しつつ成功体験を重ねていく。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	・イラストを使って、声の大きさを理解できるようにした場面もあったが、頻度が高いため、ジェスチャーで「もっと小さな声で」「下げて下げて～」と関わることが多い。ある程度、効果があるときもあった。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	・ジェスチャーと口頭で示した「小さな声」「下げる」はある程度の効果があった。 ・本人が大きな声を出したり、本能的にもしんどい行動をしたりするのは、何か他の原因があるのかもしれない。こちらの気を引きたいということもあると思われる。 ・教員を「名前呼んで」と言葉かけしたときは、適切な声量でコントロールすることができていた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	課題：コミュニケーション時の声量・自傷他害 目標：引き続き、言葉かけなどの関りを続ける。気持ちを切り替えられるように、「下げて下げて～」や「名前呼んで」などのアプローチの方法を今後も増やしていく。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もともとお喋りが大好きな生徒ではあるが、生徒自身が興味のある話題を細かく質問することで、話の領域も広がり、順序だてて話そうと一生懸命考えている姿も見ることができた。しかし、学校生活の中で自立活動の時間に学習したことを学級で活かしていくには、本校の現状の教育課程では、休み時間など生徒と向き合える時間が十分取れず難しいという課題が考えられる。</li> </ul>
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時系列を理解するのを助ける方法として、具体的な方法が有効ではないか、という意見があった。例えば、日常会話での言葉掛けとして、散歩や学校生活の中で「今は朝だね」などと、その時々状況と時間を関連付けて話しかけることなどである。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、昨日家で起こった出来事を尋ねたり、終わりの会などで学校での出来事の振り返りを教員と一緒に繰り返したりすることで相手に順序だてて伝わる言葉を選べるようになってきた。話したい気持ちが勝ってしまい吃音が出てしまうことがあるので、落ち着いて話す意識も持てるようにすることが課題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期同様の課題はあるが、できるだけ多く関わる時間を意識的に持つようにした。好きなアイドルグループの話に集中してしまうことで、語彙に偏りが見られる傾向があったので、語彙力を伸ばすために、アイドル以外に本人が興味をもつ話題を多く取り入れ、視野を広げるように仕向けると、少しずつだが、いつもと違う言葉を探すようになってきた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の中で、自分の体験したことや気持ちを時系列に沿って整理し、相手に伝わりやすい言葉や文で表現する力の育成を目指す。</li> <li>・ 「はじめ、つぎ、さいご」「いつ、どこで、だれが、なにをしたか」などの順序を示す言葉を使いながら、意識して、1文ずつ区切って話せるようになることを期待する。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ダウン症）
	• 対象児童生徒の課題	自分の気持ちを周囲に伝えることが困難である。
	• 自立活動の目標	できないことや困ったことがあるときに、自分から「手伝って」と伝える。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	• 報告カードを用いて、繰り返し練習し、習慣化を図る。 • 普段から近くで見守ることで安心感を与え自発的に「手伝って」などの援助要請を促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 報告カードを使った日々のやりとりに徐々に慣れてきた。 • 普段の教員の見守りにより安心できる関係ができ、自発的なコミュニケーションが見られる場面があった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 報告カードの活用や声掛けによって、安心感を与える関わりを意識的に行えたことは成果であった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 援助要請ができれば、すぐに「よく言えたね！」と褒める。 成功体験を積み重ねることで自発性が高まる。 • すぐに代わりにやらず、児童生徒が自分から言うまで待つ。 • 目線や姿勢で「聞く準備ができている」ことを示す。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手伝ってください」「〇〇取ってください」など、具体的な要求を大きな声で伝える場面が増加した。</li> <li>・教員の促しがなくても、困ったときに言語で援助要請を選択する傾向が定着した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助要請の言葉をモデル提示→模倣→自発発話へと段階的に支援できたことが成果。</li> <li>・今後、援助要請だけでなく、「ありがとう」「お願いします」などの社会的なやり取りを広げることが課題。</li> <li>・感情語彙（疲れた・難しい・うれしい）を使って気持ちを伝えることを目指す。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返事に困ると黙り込んでしまう。</li> </ul> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>自分の状況を自分にあった方法（言葉やジェスチャー、など）でまわりに伝え、やりとりをする。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： コミュニケーションの伝達 自分の興味があること（給食やタブレット端末の使用、校外学習など）に関して、同じことを一方的に伝え、教員側からの指示にはほとんど耳を傾けない。
	• 自立活動の目標	・ 登校後、連絡帳を提出することや、更衣することなどの授業開始までにすべきことを覚える。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持          心理的な安定          人間関係の形成 環境の把握          身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	・ 登校から下校にいたるまでの、時間割やすべきことをカードに記入し、視覚的に理解できるようにする。 ・ 自分のしたいことを優先し、その他の指示がほとんど通らないため、「今は何をやる時間かな？」など、何度も問いかける。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	自分のすべきことは理解しているが、興味や関心の強いものに集中してしまうことが多かった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	時間割やスケジュールを視覚的に理解できるように工夫してみたが、行動に大きな変化は見られなかった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	自発的にできた行動や、時間に間に合ったことを褒める。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>一学期とあまり変わらず、給食やタブレットなど、興味や関心の強いものに集中してしまうことが多かった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>より細かく、時間割やスケジュールを視覚的に理解できるよう工夫してみたが、関心の強いものは特に変わらず、行動に大きな変化は見られなかった。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>授業や更衣など、今何をすべきかをしっかり理解し、それに集中できるようになる。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ダウン症）
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 声が小さすぎたり早口になったりする。</li> <li>• 相手にうまく伝わらず、伝えることを諦めることがある。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の思いや考えを的確に伝える。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <input type="checkbox"/> コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞き取りやすい声で発信できたときは「しっかり聞こえたよ」と伝える。</li> <li>• 本人の小さな発信にも気づき、話しを聞く。</li> <li>• 教員も本人と一緒にゆっくりはっきりと話す。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友だちとの関わりの中で、しっかりと聞こえる声でツッコミを入れたり、リアクションしたりする様子がみられた。</li> <li>• 慣れた言葉（号令や友だちの名前）はみんなに聞こえる声で発音できた。自ら教員の手伝いを積極的にしようとする場面がみられ、自発的に人に話しかける場面が増えた。</li> <li>• 短い言葉ははっきりと発音できるが、少しずつ長い文章でも最後まで伝えることが課題である。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本人が話すことを、復唱して確認するようにすると、伝わらなかった時はもう一度話したり、伝わった時は嬉しそうにしたりと本人が話すことを諦めないようになってきた。</li> </ul>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を明瞭にするために、息遣いや舌の動きに着目し、深呼吸をしたり、舌を動かしたり、音楽などを通して取り組む。</li> <li>・言葉を引き出すために昼休みを使って、午前中のできごとや授業内容などを聞く。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が連絡帳を書いているとその隣に座り、会話する様子が見られた。今日の出来事や、授業の様子を書いてもいいかを聞くと、「いいよ」や「まあ楽しかった」、「いや」など明瞭に返事する様子が見られた。</li> <li>・教員の手伝いをしたい時に言葉を発することが多かったが、「足が痛い」や「歩いて帰る」など本人が伝えたいことを話す場面が見られた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の言葉が聞き取れなかった時、聞き返すと伝えることを諦めてしまうことがあるため、聞き取れた部分を復唱するようにすると続きを話す様子が見られた。</li> <li>・顔をあげて話すようにすると声も聞こえやすくなるが、それをうまく誘導することが課題である。本人が顔をあげて話した時を見逃さずに褒めることが大切だと感じた。</li> <li>・本人から教員に近づいてきた時に話しかけると積極的に返事が返ってくることが多い。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都合の悪い状況になると黙り込んで拒否したり動けなくなったりした。</li> </ul> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>自分の状況を自分にあった方法（言葉やジェスチャー、など）でまわりに伝え、やりとりをする。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	自らの言葉で意思を伝えることがほとんどなく、困りごとがあっても発信することが難しい。
	• 自立活動の目標	教室を出る際や帰りの会など自分の思いや行動に対して、周囲に伝える方法を見つける。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	「トイレに行きます」「ただいま」の音声ボタンや選択カードを準備し、手本を見せながら扱えるよう支援を行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	「トイレに行きます」ボタンは、定着しつつある。帰りの会での振り返りでは、「楽しかった」を○、「疲れた、いやだった」を×が書いてある札を使用すると、「こっち」と示したり、札を持って表現したりすることができた。教科や出来事も選択できるとよい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	○か×のように選択肢を少なくしたことで、選びやすくなり、定着してきたと考える。今後は、教科や出来事の札や感情の札などを増やし、文章に近づけていくことが課題である。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 段階的に支援グッズの位置を変えてみる。 • 支援グッズから肩をトントンとする合図に変えてみる。 • トイレのサインを使用してみる。 • 出来ている時に褒める。 • 質問の聞き方の順序を変えてみる。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレのボタンが定着してしまい、他のサインへ移行しようとするがボタンを好んでいる。</li> <li>・帰りの会では、「楽しい」の札を必ず選んでいる。「楽しい」にしぼり、口頭で言えるように本人が選んだ教科の札と一緒に声に出して言える回数が増えてきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の札を「顔の表情付き」から「文字のみ」へと様子を見ながら移行できたことと、本人の指し示した札を読み上げていたことが発語へと繋がっている。課題は、「楽しい」以外にも表現できるようにつなげることである。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>課題：自分からの発信方法を増やす。</p> <p>目標：さまざまな発信方法にチャレンジしていく。</p>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や授業の中で、発音する教員の口を見るようになり、その動きと音を真似ようとするが増えた。</li> <li>・「ありがとう」の手話を自ら行う場面が増えた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人との意思疎通できる場面が増えてきた。</li> <li>・毎回相手の目を見るように促したこと。</li> <li>・「痛い」は顔の表情と合わせて繰り返し伝え、本人にとって嬉しいことでは大きなジェスチャーで「やったー」など表現したことで、なんとなくその意味が伝わった。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を増やし、語彙や伝え方を広げる</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験が少なく、意思疎通ができないので、まだまだ本人が苦手なものが分からない。何かにつまずいた時の説明方法を探ることが望ましい。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 広汎性発達障害 ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：言葉で伝える 挨拶や感想の発表など、言葉で伝えるということは理解できているが、その場面で自分から言葉に出して伝えるということがむずかしい。
	• 自立活動の目標	登下校時の挨拶や1日の感想を言葉で伝える。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持          心理的な安定          人間関係の形成 環境の把握          身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 挨拶については、返しやすいように少し待ったり、繰り返し問いかけたりする。</li> <li>• 1日の感想については、2つ3つから選択して読めるよう文字にしておく。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	様子：挨拶について、繰り返し問いかけたり返答を待ったりすることで、「おはよう」と返すことがあった。 1日の感想については、隣で伝えることで、3つの感想を書いたカードから選択し「楽しかった」と読み上げることができた。 課題：挨拶を交わすことは、習慣にできるとよい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	成果：毎日の活動の中で取り組むことで、コミュニケーションの場ができた。 課題：挨拶を習慣にできるよう、返答しやすいような環境づくりを考えていく。 実践：こちらからの挨拶や、教員同士での挨拶を継続して行っていく。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	挨拶を習慣にしていくことを重点に目標とした場合、言葉で伝えることが難しいときにはカードやハイタッチで伝えるなど、本人が伝えやすい方法も選択肢として入れることで、コミュニケーションの場が成立したり、関わりが広がったりしていくのでは、という方法を聞き、参

		者になった。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>様子：挨拶について、繰り返し問いかけたり返答を待ったりすることで、「おはよう」と返すことがあった。また、朝の会の呼名では、呼名後しばらく待つと「はい」と返すことができていた。</p> <p>1日の感想については、隣で伝えることで、引き続き3つの感想を書いたカードから選択し「楽しかった」や「つかれた」と読み上げることができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>成果：毎日取り組むことで、その様子を見た友だちから声を受けるなど、コミュニケーションの場を広げることができた。</p> <p>課題：挨拶や問いかけなどのやりとりを習慣にできるよう、返答しやすいような環境づくりを引き続き考えていく。</p> <p>実践：こちらからの挨拶や、教員同士での挨拶を継続して行い、雰囲気をつくること。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>来年度も引き続き、挨拶を返すことや呼名に返事すること、朝の会の司会や帰りの会での1日の感想をカードから読み上げることなど、言葉で伝えることを目標に取り組めるとよい。</p>



<p>グループ討議</p>	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や移動時に、人との関わりの中で事前に気をつけることを確認する。</li> <li>・振り返りの際は、実際にどのように相手に伝えるかを確認して、その場でシミュレーションをしてみる。</li> </ul> <p>また、授業の中でコミュニケーションの内容を扱う場合も、日常で起こりうる事象について取り上げ、本人が日常生活の中で般化することができるようにする。</p> <p>叱られたということよりも、前向きなフィードバックができたという印象で終えることができるようにする。</p>
<p>2学期の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず生徒の特性として、自身の要求が抑えきれないことが考えられるため、気になる対象と時間をずらして行動する物理的支援・環境設定をすることで、他者とのトラブルは減った。</li> <li>・本人の要求について事前に伝え方を一緒に確認することで、適切な伝え方を考え、学ぶ時間になったと考えられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は物理的に距離をとることで予防的支援を行い効果が見られた。今後は、自身で予防する行動をとれるようにすることが大切である。</li> <li>・暴言についての指導については、叱られているという空気感よりも、本人が落ち着いて自身の言動を振り返ることができる雰囲気をつくり、「叱られたからダメ」ということではなく、「自身で振り返りをした中でなぜダメなのかを理解」して、次の行動につなげられるような空間や時間を設定していくことが有効だった。</li> </ul> <p>本人の中では感情が抑えきれないという特性も見られ、他者との関わりの中で一度自分が冷静になるための時間を作るためのサインの出し方などは練習段階であるが、このような振り返りの仕方を通して、本人も前向きに考えることができているように感じている。</p>
<p>まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、自身の感情を適切にとらえて、回避する方法の成功体験を積んでいくことが大切である。</li> <li>・また感情をコントロールするためにアンガーマネジメントの練習にも取り組んでいく必要がある（課題）。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 正しい言葉遣い 気分が高ぶると不適切な言葉での発言が目立つようになる。
	• 自立活動の目標	正しい言葉遣いで気持ちを伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	会話の中で不適切な言葉遣いがあれば、その場で相手がどう思ったか伝え、言い方を考えることを促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	不適切な言葉遣いがあった直後に指摘すると直ぐに謝罪することはできるようになったが、感情が高ぶるとまだまだ不適切な発言が出てしまうことが課題である。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	不適切な発言があった際に、気づきやすいように明確に嫌な気持ちになった反応をすることで不適切な発言だったと気づけるようにする。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	継続的な関わりを通して、発言の変化、反応の変化を注意深く観察し、良い変化があった際は、褒めて自分の中の気づきを支援する。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	感情が高ぶってもすぐに不適切な発言が出ることは、減ってきているが、高ぶりを制止すると不適切な発言が出ることがある。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	感情の高ぶりを制止するのではなく、なだめるように安心感を与えると不適切な発言をすることなく落ち着くことが出来ていた。 感情の高ぶりを抑える方法を身につけさせる。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	感情の高ぶりによって不適切な発言をしてしまうことがあるので、安心グッズなどを活用し、感情の高ぶりを抑えるすべを身に付ける。

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題： コミュニケーション 発語がないため、ペクス（視覚支援カード）を使用してコミュニケーションをとっている。「トイレ行きます」「手伝って」はよく使用しているが、他のカードを使用している場面はほとんど見受けられない。</p>
	• 自立活動の目標	ペクスを使って自分で伝えられる思いを増やす。
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持          心理的な安定          人間関係の形成 環境の把握          身体の動き          <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span></p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で視覚支援カードが使えるような場面を探し、本人と確認しながら使用する場面を増やしていく。</li> <li>言葉かけの頻度を減らし、身体プロンプトで日常動作や意思表示を身に付けるようにする。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>• 使えるカードの種類は増えていないが、“手伝って”のカードを出す機会が増えた。また、給食前後のスケジュールカードを自ら並べこなしていく姿も見られた。使えるカードの種類を増やすことが課題である。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• イライラしていた際に“休憩”のカードを見せると頷いてマットに寝転がっていた。その後リラックスでき、気持ちも安定している様子だった。</li> <li>• 生徒本人がペクスブックのカードをどれだけ理解しているかを把握することが課題である。</li> </ul>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 好きなものを中心に語彙を増やしていく。</li> <li>• ペクスの枚数を減らして誰とでもコミュニケーションを取れるようにする。</li> </ul>

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行で新幹線を待っている際、ペクスを使うよう促すと、「新幹線、ください」と提示することができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席が続き、コミュニケーションをとる機会が少なかったが、その日に行くデイサービスを聞くなどペクスを使用してコミュニケーションをとることができた。</li> <li>・好きなもの（修学旅行の新幹線）が絡むと積極的にペクスを使うことが分かった。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙を増やす。</li> </ul> <p>→伝えられる思いを増やすため。</p>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初は受け身な姿勢であったが、自主的に自分から発信したり、意見を発表したりすることができるようになった。また、学習した言葉を積極的に日常会話で使おうとする意識が見られ、語彙を増やすこともできた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日きちんと丁寧に取り組むことで少しずつできることが増えていったと感じる。同じ取り組みをしていると慣れが出てきてしまうので定期的に方法の見直しが必要と感じた。</li> <li>・一人だけで行うのではなく、仲間と一緒にいることで取り組みやすい環境づくりが行えたと感じる。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もスムーズに発表できることを目指す。言葉が詰まってしまっても最後まで自信を持って言い切ることを大切に、日々練習していくことを目標とする。</li> </ul>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路先が決まった。</li> <li>・家では依然、朝に学校への行きしぶりがあるが、学校では明るくなった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究などの授業ではクラスの中でも、作業的な課題を振り当てる等、本人のプレッシャーの軽減を試みた。</li> <li>・クラスの友だちが本人に積極的に関わることで、表情も柔らかくなってきた。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の学生生活では、友人との関係が重要で、卒業後も進路先で同世代とのつながりを築いていくことが課題となる</li> </ul>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に引き続き、その都度自分がしたいことを言うように促した。「トイレ」などの特定の言葉は自ら言える回数が増えてきた。また、教員に対して本人なりのコミュニケーションを取れるようになり、自らコミュニケーションを取れるようになってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の教員だけが本人に対して指導・支援を行うのではなく、複数の教員で行うことにより多数の教員とコミュニケーションを取れるようになったと実感している。今後の課題としては、生徒同士でコミュニケーションを取れるように支援していきたい。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人と関わり続け、意思表示ができるようになることが卒業後の課題として挙げられる。卒業後も、様々な人と関わり、自身の要求やコミュニケーションの楽しみを感じられるようになってほしい。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（精神遅滞 広汎性発達障害）
	• 対象児童生徒の課題	課題：友だちや教員に自分の思いや感情を適切に伝えることが難しい。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員やクラスの友だちと最近の出来事や話題について話し、コミュニケーション力の向上を図る。</li> <li>• 今日の振り返りを発表する時、その場で活動内容を思い出しながら発表を行えるようになる。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 話題を振り、友だちや教員と話す場面を増やす。</li> <li>• 振り返りに時間がかかる時は、授業名を伝え発表を促す。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員や友人との会話の中で、話題が特になくても「どうしたの？」と疑問に思ったことを自発的に尋ねたり、話しかけたりする姿が見られた。</li> <li>• 帰りの会の振り返りでは、授業に大きな変更がない場合はその日の活動を思い出しながら発表することができていた。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自発的に発言が難しい生徒のため、他の生徒が教員に話しかけた際に一緒に会話できるような雰囲気を作り、当該生徒が会話に入りやすくなるような言葉かけを意識して行った。</li> <li>「どうしたの？」「これ気にならない？聞いてみよう」等、繰り返し伝えることで徐々に疑問を伝えることができるようになってきた。</li> <li>• 支援を求める際「何を」までは言えるが「どうしてほしい」まで言うことが難しいため、今後は繰り返し「どうしてほしい」のかを問い、本人に意識させるような言葉かけを行う。</li> </ul>

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教員から発言の場を設定しながら支援をする。</li> <li>・支援を求める際「何を」から「どうしてほしい」まで言えるよう、言えるまで待ってみる、どう伝えればよいのか等ヒントを与えながら支援をする。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に会話の際、自発的に会話に加わるが増えた。</li> <li>・懇談で保護者に伝えると、母もそのように感じていたようで自宅でも自ら質問や会話に加わろうとすることが増えた様子を共有することができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回に引き続き、当該生徒が友だちと会話がしやすいよう、教員から声かけを行った。</li> <li>・困ったときに「何を」「どうしてほしい」のかを言えるようにヒントを与えながら支援した。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後色々な人たちと関わる時に、学校で友だちとどのような関わり方をしてきたのかを思い出しながらコミュニケーションを図ってほしい。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>②友だちと距離が近い場合などに、境界線の歌や腕の長さなどを使って距離感を意識させる指導を行った。なかなか内容が入らないタイミングもあるが、一定時間は指導を意識して相手から離れたり、場所を変えたりすることができた。</p>
グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になった支援方法等</li> </ul>	<p>SST に関して、コミュニケーションの情報処理を受信・処理・送信に分けて支援を検討する。それぞれ子どもを主役にし、情報のとらえ方の幅を増やし、解決方法の幅を広げ、適切な伝え方を学習する機会を設定する。</p>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>①伝えるべき内容のカードを教員が指さし声をかけると、「〇〇の授業で、〇〇をして楽しかった」など伝えることが増えてきた。実際に行った活動を発表することもあったが、まだまだ頻度が少ないので継続して取り組む必要がある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>②病欠などで、他の生徒や自分自身が休んだ後に距離感が近づく傾向があった。継続して友だちと距離が近い場合に、距離の見本など距離感を意識させる指導を行った。クラスメイトの異性と一緒に帰りたいたと、教室から後をついていくことがあった。その際、「一緒に帰りたいた」と相手に伝える機会を設定し、断られた場合は教員と一緒に移動することで、本人も納得してスムーズに帰宅することができた。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙が増え、自分の気持ちや感想などを三語文で整理して発表することができた。しかし、コミュニケーションの情報処理（受信）が伝える人やタイミングによって入りにくいことの改善や、伝える際に「〇〇の授業で、〇〇と、〇〇をして楽しかった。」など誰としたかを追加して発表できることを期待する。</li> <li>・ 人との距離について、時間が空くとリセットされる傾向にあるので、今後も継続的に支援が必要である。SSTで断る場面や、断られた場合のロールプレイについて相手や内容を変更してさらに経験を積む必要がある。</li> </ul>